

夏かき産地育成事業の取組状況について

1 要旨・目的

夏場に出荷できる産地を育成するため、県東部地区において生産技術を確立し、作業効率や利益率を高め、生産規模の拡大を推進する「夏かき産地育成事業」の令和4年8月末時点の進捗状況を報告する。

2 現状・背景

近年、オイスターバーやかき小屋など、新たなスタイルでかきを楽しむ食文化が生まれたことで、夏場の生食用かきの需要が高まっているが、中西部地区のかき生産・出荷時期は、秋から春であり、夏場に生鮮かきを提供することができていなかった。

平成30年度から、東部地区において夏場に出荷できる三倍体かきの養殖を行っているが、規模拡大や品質向上といった課題があるため、東部海域に適した生産体制の確立に向けた取組を進めている。

3 概要

(1) 対象者

県東部地区の夏かき生産者（田島漁協，横島漁協）

(2) 事業内容（実施内容）

ア 県東部地区に適した夏かき生産技術の確立



耐久性の高い素材を使用し、既存筏の2.5倍の深さまで養殖できる試験筏を設置することで、漁場をより立体的に活用した養殖を実証。

イ 夏かきの品質向上に向けた取組



既存の三倍体かきとは生産方法が異なる新たな三倍体かき種苗による試験生産を行い、倍化率及び身入りの改善を調査。

(3) スケジュール

今年度は、6月に既存の三倍体かき種苗と新たな技術で生産された種苗を導入し、7月に試験筏に本垂下した後、かきや養殖環境等の調査分析を実施しており、概ね予定どおり進捗している。

(4) 予算（一部国庫）

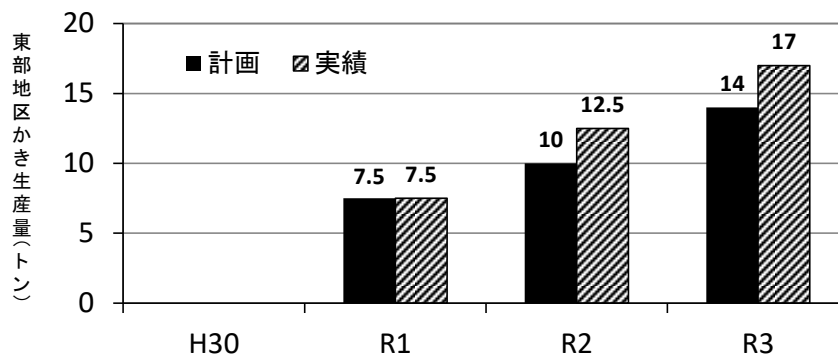
8,842 千円

(5) 事業効果・検証結果

ア 県東部地区に適した夏かき生産技術の確立

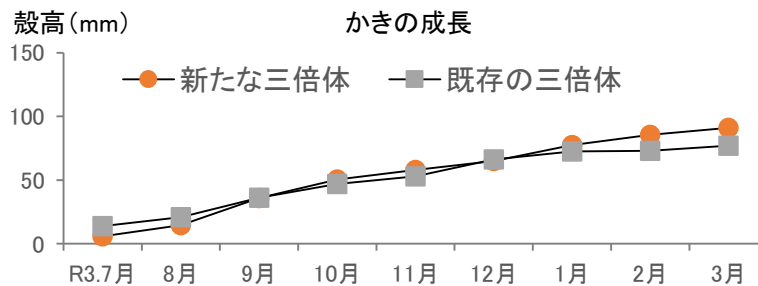
試験筏では、水深4mまでの垂下養殖を行っているが、養殖水深の違いによる成長や生残の差はなく、漁場を立体的に活用できることが確認できている。

かきの生産量については、既存筏を順次増やしていることと、クロダイによる食害防止ネットの設置などにより、計画以上の実績となっている。



イ 夏かきの品質向上に向けた取組

三倍体かき種苗の垂下時（令和3年7月）の倍化率は、既存の三倍体は84%、新たな三倍体は97%となっていた。また、令和4年3月末までの両者の殻の大きさと生残を測定したところ、大きな差は無く、どちらも順調に成育していた。夏場の身入り状況については、現在調査中であり、倍化率の向上が身入りにどのように反映するか、今後解析を進めていく。



(6) 今後の対応

試験筏での養殖を継続することにより、生産技術を確立するとともに、新たな三倍体種苗を用いた品質向上に取り組み、夏かき産地の形成を目指す。